

臨床の検査

1回目

Akio Morioka Project
E-mail : akio@makasete294.com



国際看護師協会 看護師の倫理綱領 前文

看護師には4つの基本的責任がある。すなわち、**健康を増進し、疾病を予防し、健康を回復し、苦痛を緩和**することである。看護のニーズはあらゆる人々に普遍的である。

看護には、文化的権利、生存と選択の権利、尊厳を保つ権利、そして敬意のこもった対応を受ける権利などの人権を尊重することが、その本質として備わっている。看護ケアは、年齢、皮膚の色、信条、文化、障害や疾病、ジェンダー、性的指向、国籍、政治、人種、社会的地位を尊重するものであり、これらを理由に制約されるものではない。

看護師は、個人、家族、地域社会にヘルスサービスを提供し、自己が提供するサービスと関連グループが提供するサービスの調整をはかる。

看護師の倫理をまとめると、大きく3つある

1. 基本的な責任は4つ

健康増進
疾病予防
健康回復
苦痛緩和

これらニーズはあらゆる人々に普遍的である。

2. ダイバーシティ思考

多様性を認めて行動する。

人権尊重、年齢、人種、宗教、文化、障害や疾病、ジェンダー、性的指向、国籍、政治、社会的地位などの**区別や差別をしない。**

3. チーム医療・グループ連携の推進

個人、家族、地域社会にヘルスサービスを提供し、提供するサービスと関連グループが提供する**サービスの調整をはかる。**



臨床検査

検査とは

ある基準をもとに
異状の有無や適不適を調べること

臨床検査とは

特に人体に対して行われ、その目的は「**健康状態を知る**」
、「**異常の原因を調べる**（診断）」、「**治療方針の選択**をする」
、「**治療状態を確認**する（効果判定）」こととなろう。
方法として、血液・尿・便などを調べたり、脳波・心電図
などを測定したりする検査の総称といえる。

臨床検査の種類

検体検査: 人体から採取した血液, 尿, 便, 体液, 組織等の検体を分析。

生体検査: 直接人体を調べる検査。(手術等による組織検査)

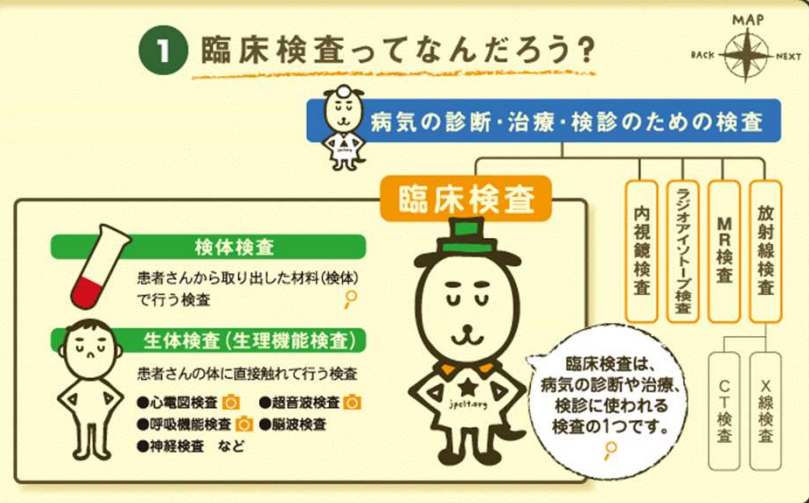
生理検査: 人体に触れる検査。心電図, 脳波, 超音波, 呼吸器検査等

臨床検査以外にも、下記のようなものがあります。

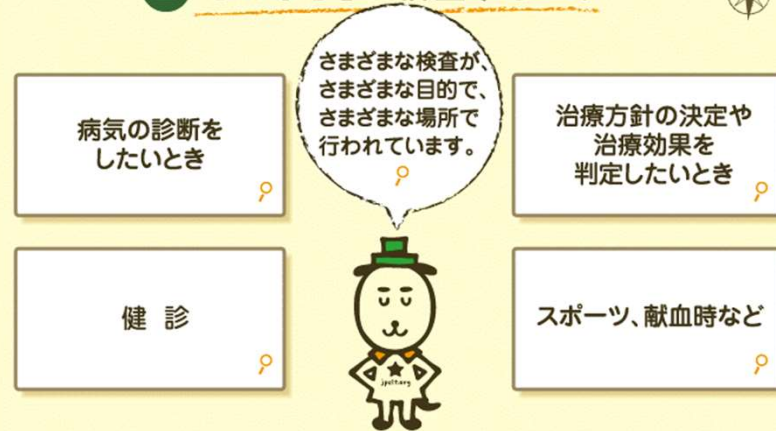
放射線関連検査: X線検査, CTやMRI検査
核医学検査(放射線同位元素使用検査) など

内視鏡検査: いわゆる胃カメラなど上部消化管内視鏡検査や大腸鏡などの下部消化管内視鏡検査, このほか気管支内視鏡, 胸腔鏡, 腹腔鏡, 膀胱鏡, 関節鏡検査など

1 臨床検査ってなんだろう？



2 どんなときに検査するの？



臨床検査が行われる病院内の部署

検査部、輸血部、病理部などの部門で、臨床検査技師という国家資格を持った専門職および医師が検査を行っている。
診療を担当する医師の指示に応じて看護師が行うこともある。

検査部… 検体検査と生理検査

病理部… 病理検査（組織や細胞の病理診断）

輸血部… 輸血・移植に関する検査

各部門には、専門の技師、専門医などが所属、勤務しており検査の実施・報告がなされる。

例：東京大学医学部附属病院

例：群馬大学医学部附属病院

東京大学医学部附属病院 検査部 体系

(1) 検査第一部門	(2) 検査第二部門	(3) 検査第三部門
採血	臨床化学	遺伝子検査
一般検査(形態・化学)	緊急検査	血液形態検査
検査インフォメーション	微量物質分析	血栓・止血検査
	免疫・血清検査	血糖検査
	外注検査	細胞免疫
(4) 検査第四部門	(5) 検査第五部門	
心電図検査	心エコー検査	
呼吸機能検査	血管エコー検査	
脳波・筋電図検査	腹部エコー検査	
脳磁図・光トポグラフィ検査		

群馬大学医学部附属病院 組織体系

医療の質・安全管理部診療科

薬剤部

中央診療施設

看護部

診療支援部門

先端医療開発センター

検査部

手術部

放射線部

病理部

輸血部

集中治療部

周産母子センター

光学医療診療部

リハビリテーション部

感染制御部

腫瘍センター

重粒子線医学センター

救命・総合医療センター

採血
一般
臨床化学
免疫
血液
遺伝子
微生物
生理機能

検体検査

血液検査

生化学検査

血清検査

腫瘍マーカー

一般検査

微生物検査

貧血や白血病の有無などの検査。

生化学的反応を使った検査。

免疫学的反応を使った検査。

悪性腫瘍の特殊な物質の検査。

尿、便、髄液、穿刺液等の検査。

感染症の原因微生物の特定検査。

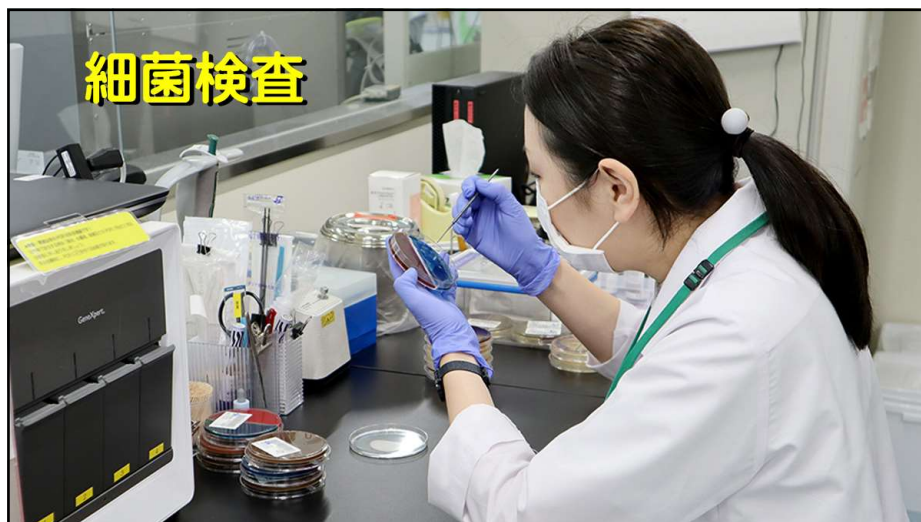




血液検査



免疫学検査



細菌検査

生理検査

循環機能検査
脳神経機能検査
呼吸機能検査
超音波検査
その他生理検査

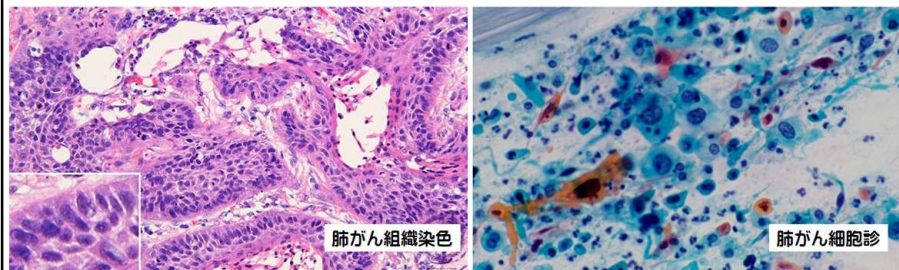
心電計・心音計装置等での検査。
脳波計・神経伝導装置等での検査。
呼吸機能・ガス分析装置等での検査。
超音波診断装置を使った各臓器検査。
眼底写真、サーモグラフ等の検査。





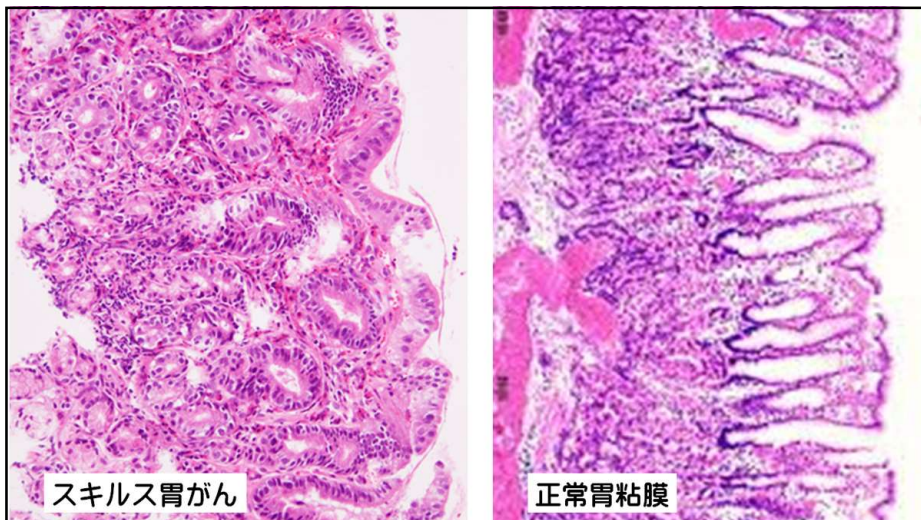
病理検査について

人体から採取した組織、細胞からプレパラート（顕微鏡で観察できるガラス標本）を作成し、顕微鏡で形態を観察することで**病気の確定診断**、**病期や予後の推定**、**治療効果の判定**を行う検査です。病理検査は、検体の種類・採取方法や目的によって**組織検査**と**細胞診検査**に分けられます。



肺がん組織染色

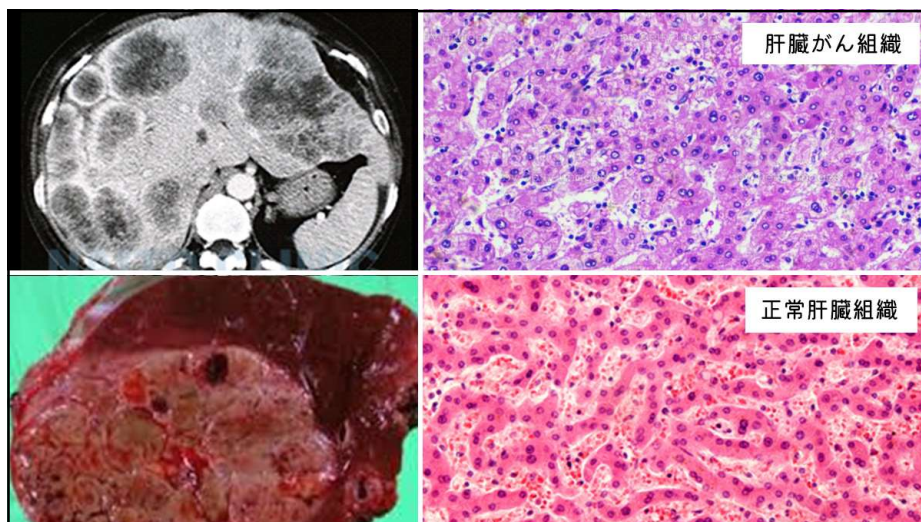
肺がん細胞診



スキルス胃がん

正常胃粘膜

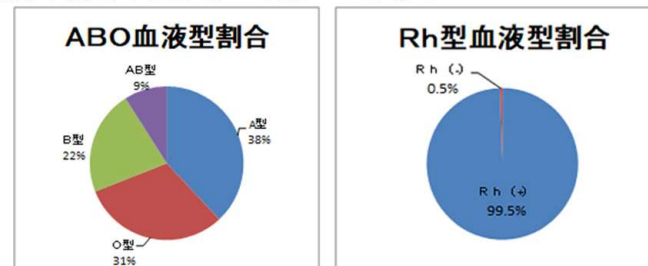




輸血検査

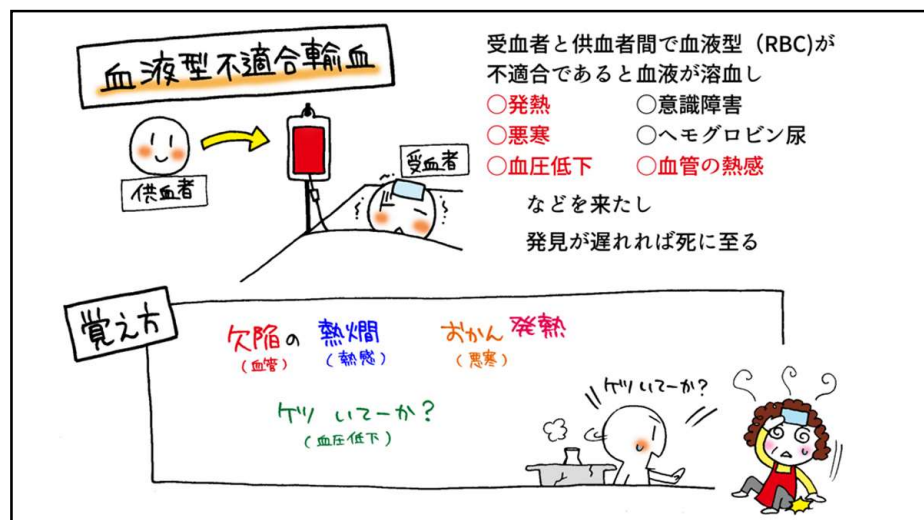
輸血検査の業務は、安全な輸血を行うため輸血用血液製剤が患者に適合するかどうかを見る検査です。

検査後、輸血するまでの期間、徹底した温度管理による製剤の品質保持、輸血後の患者の副作用発生の有無の管理、輸血による感染症罹患の検査の啓蒙などを行っています。



輸血実施時のトラブル

1. 間違った製剤の輸血
2. 患者・製剤の照合間違い
3. 不適切・不要な輸血
4. 過剰輸血
5. 過小輸血・失血死
6. 保管管理の間違い



法医学における臨床検査

法医学は解剖を実施して死因を決めるだけの学問ではない。
死因を究明するために、解剖、薬物検査、画像検査、検体の生化学的検査など様々な検査が必要である。

また、白骨化した遺体の場合、自殺・他殺・事故死といった判断をするために、身元を確定した上で、遺体がどのような環境で暮らしていたのかを考察しなければならないのだが、身元確定のためにはDNA検査や歯科所見などが必要になる。

これら、死体由来の試料を用いる諸検査は、腐敗による変化や死後の薬物再分布といった死体特有の現象があり、時として汚染された可能性のあるわずかな試料を検査対象とすることがあるため、警察で実施している鑑識業務や一般病院で実施している生体試料を用いた各種検査とは異なる独特な経験や熟練を要し、異なる精度管理が必要とされる。

ある救急搬送患の事例

空港で体調不良の男性
嘔吐・けいれん → 意識混濁 → 意識消失 → 死亡



ヘリカルCTスキャンによる患者の体内

